

人生の小さな転機について

事務局としてではなく、稚拙な一人の人間として 黒澤友彦

「新しい生活様式」という言葉が示された。田舎暮らしとか、環境学習が勧められるのかと期待していたら、日常生活における単なる注意事項の羅列で期待外れだった。個人的には、田舎暮らしが声高に叫ばれるたびに自分が褒められているようで、安定しない職業にある自分の心や立ち位置に自信が持てるようになるのだが・・・。

「新しい生活様式」という言葉をもう少し掘り下げてみる。

今回はコロナウィルスによる様々な影響が発端であり、根本的なきっかけは自発的でない～そりゃそうだ、日常生活にそれなりに満足して生きているのならば、そのまま継続でかまわない。かまわなかっただろう。

この現状、将来像を、専門的な立場の意見を選択整理しながら、自分の脳ミソで決めることが大事だなと思う。科学的に正しい情報を入手した上でどのような生活様式をイメージするのか？

日常生活では「いつの間にか新しい生活様式に変わっている」という言い方が正しいか。明日からの田舎暮らしではなく、選ぶ情報の選択、選ぶ野菜の選択、選ぶ旅先の選択・・・日々の小さな具体的な物事の積み重ねがいつの間にか人を変化させる訳で、人は急には変わらない、変わらない。

これは人間性の欠点を改善する時も同じで、明日からやさしい人間に、落ち着いた人間に、思慮深い人間に・・・なれる訳がない。人は急には変わらない、変わらない。

とりあえず第一歩目としては、「早起きをする」「挨拶をする」「怒る前に深呼吸」など、具体的な物事の積み重ねで人間性もいつの間にか変化しているというのが正しいと思う。簡単に言えば、日々の心がけということか。

あえて恥ずかしさも覚えながら、最近の自分に起きた転機を書いてみる。内容は低俗でくだらない。自分が率先して恥を晒すことで、相手も心を許してくれるのならば、あえて恥をかこうではないか。ピエロでかまわない。

人生の小さな転機①

2017年12月(40歳5か月) 「20年間吸い続けたタバコをやめた」

と、ようやく言ってもよいだろう。

この数年前に2万円の費用を掛けて禁煙外来に通ってみたもののやめることはできなかった。

やめることができた原因は電子タバコのおかげである(私が吸っていたのは glo という加熱式の電子タバコ)。

この電子タバコ、チェーンスモーキングの自分にとって厄介なことに、常に充電が必要だった。

パチンコ屋にて、最近のパチンコ屋は、各台にUSBの充電ジャックがある。電子タバコをUSBケーブルで充電しながら吸い、パチンコをする・・・USBから繋がれた電気を電子タバコを通して煙に変換し、それを吸いながらでないと生きられないような気持ち悪さを感じた。

だからといってタバコ依存症の人間が簡単にタバコをやめることにはならない。

この glo って電子タバコ。自宅にて、便器に落として流してしまい、庭の下水管を開けて発見したこともある。もちろん壊れたが、それよりも下水管を詰まらせなくてホッとしたもんだ。

転機は来る。この年の12月に入って忘年化と称し、4日連続で飲み会があった。既に二日酔い？三日酔い？酒が抜けずに気持ち悪い。そんな時に、 glo が壊れた。村内では本体が手に入らないので、仕方なく、以前に吸っていた紙巻のタバコを購入した・・・この電子タバコに慣れると、今まで吸っていた紙巻のタバコが臭く

て不味い。

二日酔いもプラスされてだが・・・タバコが不味いのだ。こんなに不味いのなら別に吸わなくていいや、と過ごして3~4日・・・何だかよくわかんねえけど、タバコ要らねえな。しばらく止してみるかな、と過ごすうちに、年末の「冒険学校まふゆのキャンプ」、都内での忘年会、そして正月を迎え、タバコを吸わなかった。

そのままヤメてしまって現在に至る、何の努力もしていない。今現在で2年5か月の間吸っていない。夢ではちょくちょく吸っている。酔って記憶が飛んだ時も、貰って吸っていないらしい。

たばこ・タバコ・煙草。今でも良いイメージを感じる。旨い・大人・深い思考・文化・コーヒー・推理・張り込み・麻雀・パチンコ・・・様々なポジティブな言葉が連想される。

幼少期は、父のおつかいでタバコを買いに行った。お釣りを小遣いにくれたから喜んで買いに行った。

冒険探検部の部室では、海外から帰ってきた先輩たちが異国のタバコを持ち帰っており、みんなでよく味わったなあ。「珍しいタバコを吸うよりも普通のタバコを吸った方がいい、西表島でも与那国島でも（小菅村でも！）日本のどこでも手に入るノーマルなタバコがいいんだよ」みたいなことも話したり。

今もタバコは値上がりが続く、「煙になって消える高級な嗜好品」である。吸っている時は何にも思わなかったけれど、ヤメた今となっては勿体なくて手が出ない。そんな経済的なこともあり、もうタバコに手を出さないかな。耐えられないストレスを抱えたときは、別のストレス解消方法を調べるかな。

（参考） 20年間のたばこ代（1箱250~440円の期間、1箱当たりの値段を真ん中の345円として）
 $365（日） \times 20（年） \times 345（円） \times 2（箱） = 5,037,000円$ 500万円オーバー！！

吸ってきた20年間は惰性でしかないが、「旨かった」と胸を張って言える。

もしも20歳に戻ったら吸わない。500万円を煙に変える訳にはいかない。

そしてこの禁煙は、自分の力で勝ち得たものではなく、偶然によるものだった。幸運に感謝！！

（小話）

パチンコ屋の営業、休業要請をニュースで観る。この機会にパチンコ屋が物理的に減ること、経営が厳しくなり、サービスできなくなることは、元々減り続けている遊戯人口をさらに減らすことになる。理由はWebで調べればすぐ出るが大きく3つ

- ① 遊戯人口の減少・・・若い人はパチンコ以外にたくさん遊びがあるよね！
- ② 依存症対策のためのマイルド化・・・勝てなくなる、刺激がなくなる、即ち経営的に悪循環
- ③ オリンピック誘致も含めた禁煙の強化。

ということで、萎み始めているこの業界。大手は、カジノへの移行など別の業種にも動き始めている。

でも根本的に「娯楽」とは言え、「負ける人のお金で成り立つ」業種なんだよね。サービスといえばサービス業。エンターテイメントと言うならば遊園地と同じ部分も多く、ギャンブルというならば、競馬、競輪、toto、宝くじも同じ。

グレーだから楽しい世界。大人の世界？込み合っている逆にも一人になれる空間。タバコを堂々と吸える空間。

依存症の人たちの荒い金遣いで成り立つ空間。適度なギャンブルなんて存在しないでしょ。

なので、だんだんと萎んで無くなってしまふことは仕方のない時代。従業員の方は職替えしていくしかないんだろうなあ。時代だから仕方のないでしょ？それこそコロナ以前から考えるべき「新しい生活様式」なんじゃないかな。

次の転機は自分史にとっては最大の出来事の一つだが、他人にとってはどうでもいい話。人と他人の距離はそんなもんだよね。分かってくれなくてOK！という、物事もたくさんある訳で・・・。

人生小さな転機②

2019年2月(41歳7か月) 「パチンコ・スロットを引退した(ヤメた)」

今冷静に思うと依存症の期間もあった。26歳時に小菅村へ(自分の意志ではなく)移住した際に、都会の文化とは物理的に距離を取ることになった(強制隔離)。その後、青梅へ行くとすればパチンコ屋に行っていた訳で、覚えてから17年ぐらい熱心に通い続けたもんだ。たくさんのお布施をして、その代わりに脳汁を垂れ流していた。高い脳汁代金だ。

これもまた面白い娯楽で、大の大人が勝ち負けのみならず、コンピューターに制御された熱い演出で一喜一憂し、脳汁が出る。だからたくさんお金を使う。使っていけないお金まで使ってしまう。約束を破る。精神が荒れる。そして依存症になり、社会的な問題になる。

「勝っている」という人も年間、生涯収支となれば、8割以上の人が負けていると言われている。

それはそうだろう。駅前の一等地、郊外の大規模店舗などが経営されるためのその費用の全てを客の負け分で賄っている訳だ。

一般的にパチンコ屋の還元率は85~90%の薄利多売と言われている。85~90%はお客さん全体に戻す分。10~15%で土地、機械代、電気代、従業員経費、利潤を賄っていると言われているサービス業である。

競馬は還元率75%と言われている。パチンコ屋よりもトータルで勝つのは難しいとされている。カジノは95%と言われている。

宝くじは還元率50%。これは既にギャンブルではない。夢という商品という認識の方が良い。だからこそ、社会福祉協議会やら小菅村営バスもそうだが「宝くじ号」なる寄贈車がある訳で、ギャンブル好きとしては逆に言えば、宝くじなんて絶対に手を出さないジャンルとも言える。

ギャンブルとして考えた場合はパチンコよりも宝くじの方が明らかに「愚」。だけど宝くじの依存症はあんまりないから好きな人は「夢」を買い続けられればいい。

麻雀も最近はお金を掛けないプロが存在してリーグ戦をしたり(Mリーグ)、クリアなイメージになってきている。パブリックビューイングとか六本木で開催したりもする(チケット代8,500円払って観に行きました)。

麻雀もパチンコも勝つための方法があって、勝っている人たちが共通して言うことは、「収支(表)を付けること」である。

「収支表を付けてない人はその時点で勝っている人はいない」というのは定説でもある。「客観的な数値で判断しましょうね」という分かりやすい話でもある。客観的な事実が無いと感覚だけで不都合な事実を目を瞑ってしまうわけだ。これはギャンブルだけでなく、人生にも共通することでもあると思う。

私は言い訳として、-2~3万円/月で、年間-24~30万円ぐらいなら、負けても趣味としてOK(趣味としてならば負けではない)と考えたりもしていた。収支表は2006年から13年間、全て付けている。逆に言えば、17年間のうちの最初の4年間の収支表は存在しない訳で、依存症である証拠でもあるし、どんだけ負けていたんだと恐ろしくもなる。

とか何とか言いながらお布施(負け)を続けていたのだが、転機は来る。ある時を境に、環境と情報収集と訓練の成果により、勝ち組になった。生涯収支も大幅に改善された。勝ち方が分かった。詳しく知りたい人は飲みながら話しましょう!(自慢話ですから)

その結果、引退を決意した。勝つ人は勝つべくして勝ち、負ける人は負けるべくして負ける。運の要素は、一日単位では振れ幅は大きいけど、年間に直せば、ツイてる日も、ツイてない日もあり、それも込みで成績に反映される。

なので、勝ち方も負け方も理解し、脳汁を超えた地点に至ったので(それなりに極めて)ヤめることができた。

最後の3年間でたくさん勝って、いい思い出をいっぱい作ってヤめることができた。ギャンブル依存症の

人がたくさん出るぐらい、脳汁の出してしまう魅力的なものをヤメてしまった今、それを超える楽しみはしばらく見出すことはできないのだと思う。毎日ニコニコ子育てをしていて、幸せであり、穏やかだけれど、脳汁は出ない。もう一生出ないだろうなー、出なくていいや。「俺は確かに熱い時間を過ごした。」という、これについては自信に満ちている。思い出してニヤニヤして過ごす、あと数十年してもニヤニヤできるネタである。同じ状況、時代には二度とならないから。

転機のきっかけは、友人宅に泊まった時にあった一冊の雑誌（DVD付）だった。
（コンビニにも売っているもので、決して怪しいものでも如何わしいものでもない）

（小話）

だいたい、先の読めないコロナウィルスによる緊急事態宣言の出ている中でお店がサービスする訳ないでしょうよ。

世間から文句を言われて非難に晒されても、「お店と従業員の雇用を守るため」に営業しているのであり、通常時よりも還元率が高い訳がない、確保で必死。常連で無い人が遠方から来るのであればサービスする訳ないでしょう、取れるだけ取る（回収）でしょう。

パチプロたちは廃業も考えながら、お店に行かないでしょう。勝つ見込みがないのに運勝負（期待値的には行くだけで負け）する訳がない。パチプロは廃業になるかな。

すなわち、こんな時にパチンコ屋に行っている人は依存症。コロナウィルスの感染に目を瞑っちゃうほどの依存症と私は判断している。

ただのパチンコ好きな人は、他の趣味に時間を使うなりコントロールできる、周囲の人に迷惑を掛けないように。

パチンコによるギャンブル依存症を無くすために、今この状況で行っている人たちこそパチンコから隔離してあげるべきだし、この人たちがいなければ成り立たない業界であるならば、「依存症の人たちに負けて成り立っている」というのは間違いではない。

人生の小さな転機③

2019年7月（42歳0か月） 「新しい緩やかな生活様式」

子どもが生まれた。妻の育休は1年の予定。小菅村の保育所は満2歳の4月（ウチの場合は2022年4月）から入所可能。ということで情報収集しながら話し合い、妻は予定どおりの7月に育休から復帰を予定し、保育所に預けるまでの期間は私が子守をするということで話を決めた。

そのため、自然文化誌研究会・木下養魚場の仕事を切らずに継続しながら子守をできる体制づくりをしてきた。

そしたら、コロナウィルスがはじまり、GWは中止、この原稿を書いている時点では確定してないが、夏の主催事業も厳しいことが予想されている。

2022年4月まであと700日なので、コロナウィルスの影響で仕事が無いことで給料が減っても、子育てという大義名分を掲げてのんびり暮らすことに決めた。決めないと、減る収入に対する不安に押しつぶされてしまう。

今回は他発的に仕事が減ってしまったのだが、一人前の稼ぎが必要な時ではない（むしろたくさん働くわけにはいかない）ので、自然文化誌研究会と私、木下養魚場と私の関係においては、従業員の雇用を気にしなくていいよ♪と、明るくいきましょう、と決めた。

子どもができたことで一番の変化は、近所を散歩するようになったことだ。雨が降らなければ毎日。一日に多い日は5回ぐらい散歩に連れていく。

賑やかさを求めるなら道の駅へ。ヤギもいる。見渡せば山に囲まれている。自画自賛できるぐらいいい環境

だ。何が良いて、そこまで厳しすぎない所かなあ。冒険するには物足りないけど暮らすにはちょうどいい。

子どもを抱っこして歩くペースになった。ゆっくり過ぎてカロリーを消費してなさそうだ。そのおかげで今まで気付かなかった収穫（物）がたくさんある。



（秋）近所のクリタケ



（春）近所のコシアブラ（毎日採れた）

きのこ、山菜が目に入る。こんな近所に、こんなにたくさんあるなんて、今まで知らなかった。宝が見えていなかった。

毎日ゆっくり定点観測をしているからだろうか？

この「ゆっくり」という視点は今まで無かった。山菜やきのこならサッサ採って調理して食べる。仕事はサッサ片づけて次のことをやる。イベントも行事もそうだ、スムーズに進めるのが正しい・・・。

「巧遅は拙速に如かず」（今 Web で調べた）が好きで、事務局はスピード勝負だし（？）、遅いのは嫌이었다から、真逆の時間の過ごし方をしているのだから 180 度方向転換に、まだ慣れないでいる。

とは言え、山菜ときのこについては、ただ知らなかっただけ。車という物理的手段と教わった場所という（安易な）経験則で、足元を見ていなかったんだなあ、と思う。でも理由が無ければこんなゆっくり歩かないで仕事をしたり、薪割りなどの生業がいくらでもあるからやはり効率良く動く方が好みだが。

あと 700 日、こんな感じで暮らして保育所に送り出し、バージョンアップして仕事に復帰するのが、これからの 2 年間のイメージなる。

脳汁は出ないけれども、楽しくぜいたくな暮らしの筈だと信じて。

このゴールデンウィークは貴重な経験となるだろう。社会の状況が変われば閑散としたゴールデンウィークにもなる訳で、いろいろ決めつけているけれども可能性は 0 ではないということだ。このようなゴールデンウィークを再び望むならば、無人島に行くぐらいしかないのかもしれないが（その無人島も混雑してるかもしれないが）。